

## 研究成果要旨

### 研究テーマ

共同教育課程でのテレビ会議システムおよびインターネットを介した遠隔授業・個別指導の教育効果に関する基礎的研究

### 研究組織

研究（代表）者：日本赤十字北海道看護大学・教授・河口てる子

共同研究者：日本赤十字北海道看護大学・教授・中野実代子

日本赤十字北海道看護大学・教授・石崎智子

日本赤十字北海道看護大学・教授・西片久美子

日本赤十字北海道看護大学・教授・根本昌宏

日本赤十字豊田看護大学・教授・大西文子

日本赤十字秋田看護大学・教授・山田典子

日本赤十字広島看護大学・教授・眞崎直子

日本赤十字九州国際看護大学・教授・本田多美枝

### キーワード

遠隔授業、テレビ会議システム、インターネット、共同教育課程、大学院教育

### 研究報告

#### (1) 研究の背景・目的

赤十字6看護大学では、平成26年度に専用回線を用いたテレビ会議システムを導入し、平成28年4月からは大学院共同看護学専攻博士課程が、赤十字5大学（日本赤十字北海道看護大学、日本赤十字秋田看護大学、日本赤十字豊田看護大学、日本赤十字広島看護大学、日本赤十字九州国際看護大学）において開設され、協力校である日本赤十字看護大学とともにテレビ会議システムおよびインターネット回線を用いたスマート会議システムで遠隔授業・個別指導を実施している。しかし遠隔授業による教育効果に関しては明らかにはなっていない。そこで研究目的は、テレビ会議システムおよびインターネット回線を用いた大学院教育遠隔教育について、その具体的な利便性、有益性を含めた、総合的な教育効果に関する基礎的データを収集し、教育効果の一端を明らかにすることである。

#### (2) 研究方法

研究参加者は看護系大学5校の学生7名と教員7名、半構成的面接を実施した。インタビューガイドを用い、テレビ会議システムでの5大学同時授業・指導についての意見、就業状況と大学院での学習状況、遠隔授業の学習上の困難、対面授業に比較した利便性、効果等を問うた。手順は、文書および口頭で本研究の主旨および方法を説明し、同意が得ら

れた方を参加者とした。分析方法は、逐語録に起こしたインタビューデータについて、インタビューガイドの項目にそって分類し、内容の共通性や異質性を抽出しコード化、カテゴリー化した。

### (3) 結果

遠隔授業の実践結果を中心に報告する。入学生は平成 28 年度 14 名、平成 29 年度 14 名、5 月に合同ガイダンス・初回授業を対面で行ない、それ以降は数か所からテレビ会議システムを使用し授業した。学生は自身の都合に合わせ、スマート会議システムでパソコン・タブレット・スマートフォンから参加した。スマート会議システムは、平成 28 年度は北海道の 5ID であったが、平成 29 年度は北海道・九州・広島の 15ID が加わり、頻度高く稼働した。質疑応答の工夫（質問・意見があるときは「質問」「意見」の札を画面に出す）により、ハウリング等が起きる問題は解消された。しかし、スマート会議システムでは、学生のパソコン等の容量、マイクやカメラ機能、設定に差があり、画像トラブルが起きていた。

### (4) 考察

テレビ会議システムでは、画面が鮮明で大きく音声もクリアであり、各学生の表情等も確認できるため、授業はスムーズに行われ、対面での授業と遜色ないと思われる。授業・演習等の教育効果も十分であるが、疲労は多少強い。利便性が高いため、教育の機会は対面教育方法のみに比較し、格段に高い。

### (5) 結論

テレビ会議システム使用した教育方法は、総合的に判断し、教育効果、利便性ともに優れ、対面での授業と遜色ないことが明らかになった。

### (6) 謝辞

学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成(平成 29 年度)により助成を受けた。

### (7) 引用文献

富家直明, 坂野雄二(2010). 臨床における面接 遠隔支援によるスクールカウンセリング. こころの科学, No.149, 74-78.

久保田聡美, 大碓正徳, 芦田川さゆり, 新村佑子, 今津陽子, 山田寛(2015). 5 大学共同大学院における遠隔授業システムの開発. 高知県立大学紀要 看護学部編, Vol.64, 103-109.

谷田貝雅典, 安田孝, 坂井滋和, 永岡慶三(2011). 視線一致型および従来型テレビ会議システムを利用した遠隔授業と対面授業によるディベート学習の教育効果測定. 教育システム情報学会誌, Vol.28, No.2, 129-140.